

平成25年度 第1回千葉市スポーツ推進審議会議事録

1 日 時 平成25年7月24日(水) 14:00~15:45

2 場 所 千葉市教育委員会 第一会議室

3 出席者

(1) 委 員 霜禮次郎会長、渡辺志げ子副会長、内山英昭委員、岡村太郎委員、小川直哉委員、
五月女重夫委員、中村康弘委員、谷藤千香委員、増子みき子委員、森幸三郎委員
(10人)

(2) 事務局

生活文化スポーツ部長

保健体育課長補佐、学校体育係長、千葉市スポーツ振興財団事務局次長

スポーツ振興課長、課長補佐、担当課長補佐、スポーツ振興係長

4 会 議

(1) 開 会

(2) 新委員紹介

(3) 挨 拶

(4) 会長挨拶

(5) 議事録署名人選出について

(6) 報 告

① 平成24年度スポーツ振興事業実績及び平成25年度方針と施策について

② 全市的なスポーツ施設の在り方の検討について

③ 障害者とのスポーツ交流の促進について

④その他

(7) 議 事

① スポーツ振興計画の進行管理について

② 千葉市トップスポーツとの連携の考え方について

③ その他

(8) 連 絡

(9) 閉 会

5 議事の概要

(1) 報告事項3項目の後、①スポーツ振興計画の進行管理について②千葉市のトップスポーツ
との考え方について審議がなされた。

6 会議経過

(1) 開 会 14:00

① 会議は公開。(傍聴人:なし)

② 委員10人のうち10人出席。

(2) 新委員紹介

(3) 挨拶

生活文化スポーツ部長

皆様、こんにちは。

生活文化スポーツ部長の小池でございます。

会議に先立ちまして、一言ご挨拶申し上げます。

委員の皆様方には大変お忙しい中、第1回スポーツ推進審議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、日頃より、本市のスポーツ振興・発展のため多大なるご尽力・お力添えを賜っておりますこと、誠にありがたく、心よりお礼申し上げます。

さて、スポーツ行政につきましては昨年、教育委員会から市長部局スポーツ振興課となり1年が過ぎました。

5月の末には市長が再選され、ローカルマニフェストの中にもスポーツに係る項目が書き込まれております。少し紹介させていただきますと「スポーツ都市の実現に向けて」ということで、政策としては「スポーツイベントを千葉市内に積極的に誘致すること」、「市民が地元のトップスポーツ選手を応援する千葉市にすること」、「車椅子スポーツのメッカ、障害者スポーツのまちへ、市民のスポーツをする機会を充実させる」などスポーツに関する多くの項目が掲げられております。

本日の会議におきましても次第にありますように、昨年度の実績、今年度の取り組み、障害者スポーツとの交流、トップスポーツとの連携等について、報告事項や議題といたしまして皆様方からご意見を伺う予定となっております。

委員の皆様方には、2年目の会議となりますが、昨年度と同様、忌憚のないご意見をお願いいたしますとともに、一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申しあげ、簡単ではございますが、ご挨拶といたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

職員紹介

スポーツ振興課長が事務局職員を紹介する。

(4) 会長挨拶

・会長挨拶

皆様こんにちは。

今日は少し涼しいようですが、足もとの悪い中、たいへんお忙しい中おいでいただきましてありがとうございます。

今年度も引き続き、委員の皆様方のご協力を得まして、会長の任を果たしてまいりたいと思いますので、よろしくご指導おねがいいたします。

この夏の話として、千葉市立幕張本郷中学校の保健体育科の「笛木(ふえぎ)靖(やす)宏(ひろ)」先生が現役の教員として、陸上の400mハードルでアジア大会優勝というニュースが入ってまいりました。たいへんすばらしいビックニュースでございます。最近では現職の埼玉県の職員もオリンピックに出場して活躍するということもあったようですが、千葉市でも教員の選手が優勝するということはたいへんうれしいかぎりでございます。出身は山王中学校だそう、千葉市出身の選手として千葉市のスポーツ界に明るい話題を提供していただきました。

また、本年度は平成23年度に策定したスポーツ振興計画の中間の年にあたり、計画の見直しを進め次期計画策定の準備を始める年でもあります。目を白黒させるようなあたらしい企画

力でスポーツ計画を推し進めてまいりたいと思いますのでご理解とご協力をお願いいたします。
本日お集まりの委員の皆様には、それぞれのお立場から、ご意見を頂戴してまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(進 行)

会長に議長を依頼する。

(議 長)

それでは会議を始めるにあたりまして、議事録署名人を選出したいと思います。

(5) 議事録署名人について

(議 長)

議事録の確定方法は、「予め指名された委員」による承認にしたいと思います。よろしいですか。

(委 員)

<異議なし>

(議 長)

それでは、議事録署名人として、五月女委員にお願いしたいと思います。五月女委員よろしくをお願いいたします。

(五月女委員)

<了承>

(6) 報 告

①平成24年度スポーツ振興事業及び平成25年度方針と施策について

(議 長)

会議次第に従いまして、進めてまいります。

(6)の報告①「平成24年度スポーツ振興事業及び平成25年度方針と施策について、事務局、説明をお願いいたします。

(事務局)

スポーツ振興課より、レジュメ報告資料に基づき報告がなされた。

(事務局)

保健体育課より、レジュメ報告資料に基づき報告がなされた。

(事務局)

スポーツ振興財団より、レジュメ報告資料に基づき報告がなされた。

(議 長)

ただ今の報告につきまして、質問などありますか。

(委 員)

各学校で部活指導者が少ないと聞いており、外部から先生をお招きして指導に当たっていると聞いているが、指導方針など学校の先生と打ち合わせをされているのでしょうか。

(事務局)

運動部活動に地域の方を指導者として派遣する事業を継続していますが、学校が地域の方で適任の方を推薦し、その方に依頼する形をとっています。地域の方で、今までに経験があるなど内容を理解されている方ですので、指導面、子どもの実態などあらかじめ把握されて

おりますので、理解されていると思います。

(委員)

いままでに、一回もトラブルはありませんか。

(事務局)

私が把握している限りではありません。

(委員)

中学校での武道の必修化にともない千葉市56校ではどこも柔道を行っているようですが、全国的にも柔道が多いと聞いています。千葉市柔道連盟の協力を得てということで安全面も配慮されていることと思います。柔道は中学・高校の部活動の中で死亡が事故多く、また、受け身の練習の時には首のけがが多いと聞いています。安全には、配慮されていると思いますが、今年は今までに大きな怪我はありませんか。

(事務局)

24年度こちらで把握している柔道学習時の大きな怪我としては、足の指の骨折が一件あります。その他は捻挫、打ち身等の報告がありました。委員さんが言われましたように安全面については、指導者講習会において「安全面に配慮した指導方法」という内容でやってきましたので、23年度に比べると24年度の怪我の数は激減しております。

(委員)

以前あった学校プール開放はなくなったと思いますが、今年度の振興計画の中に学校施設の有効利用ということで2校上がっています。これは一般向きなのでしょうか児童向きなのでしょうか。

(事務局)

これは、高洲市民プールが震災の影響で閉鎖となりその代替措置として昨年度から実施しております。昨年度は高洲二中と高洲三小でしたが、小学生の利用も多いということで今年は稲浜小と高洲三小を開放するものです。なお、一般の方も利用できます。

(委員)

プール開放のお話が出ましたが、私の住んでいる真砂には近くに小中学校がたくさんあります。個人的な市民的な考えでは近くの学校のプールにいきたいと思っています。今年度は無理かと思いますが、もう少し対象のプールを増やすことが可能であればお願いしたいのですが。

(事務局)

過去にやっていた経緯はありますが、全国的には事故があったこともあり国から示されている基準が厳しくなり、1校当たりの財政的なものが必要になってくるので現状としてはできない状況です。高洲市民プールがオープンするまでの暫定的なものとして考えており、来年度以降、他の学校での開放実施は厳しい状況です。また、他都市も今、どんどんやめている状況にありますのでその辺の様子を見ながら判断するということがあります。

(委員)

部活についての話が先ほど出たので、関連してお聞きしたいのですが、24年度から新学習指導要領がスタートし、初めて教科体育との関連性においても部活動の重要性が認められたということがあると思いますが、現在、中学校の部活動の加入率はどうなっているのか、また、昨年度の部活指導者派遣の種目数が34校60名となっていますが、私のやっていたところは柔道1種目しかありませんでした。どのくらい種目数が増えているのでしょうか。

また、専門的指導者派遣事業はせっかく事業として立ち上げておきながら、派遣者0とい

うのはどうしてだったのか。その辺の原因は分析しているのでしょうか。

(事務局)

昨年度の調査では、部活動の加入率は約7割となっています。運動部活動指導者の派遣は24年度34校60人となっておりますが、種目では、多い順から申しますと、ソフトテニス、バドミントン、バスケットボール、野球となっております、全部で15種目となっております。

3つ目の専門的部活動指導者の派遣につきましては、なぜなかったのかというところまで分析はしておりませんでした。学校から要望を上げていただく形になってはいますが、その要望がなかったということになると思いますが、今、はっきりとした返事は示すことができません。

(委員)

3番目の部活動指導者派遣は保健体育課が予算を持ってやっている事業ですね。4番目の専門的部活動指導者派遣事業はスポーツ振興課が予算を持って保健体育課が受けてやっている事業と捉えてよろしいでしょうか。

(事務局)

スポーツ振興課として予算立てはしておりませんし、特段タイアップもしておりません。

(委員)

ではどこでしているのでしょうか。

(事務局)

スポーツ振興財団です。

(委員)

財団ですか。失礼しました。

財団が予算をとってそこから派遣するということですか。

(事務局)

当財団職員が無償で行くという形をとっています。

種目は限定されますが、ヨットやソフトボールなど一般的に難しい部分を指導するという
ことで職員を派遣した実績がございます。

(委員)

あまり学校側からの要請がなかったということということですか。

(事務局)

そうです。

(委員)

指導要領でダンスが必修化されましたが、ダンスの種類もフォークダンスや現代的なリズムのダンス等いろいろあると思います。ちなみに千葉市の授業ではどのようなダンスが多く取り扱われているのでしょうか。

(事務局)

創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンス等が扱われていますが。現在各学校の指導計画を持ち合わせていないので、数値的にはっきりは申し上げられませんが、子供たちののりが良いものとしては、現代的なリズムのダンスや創作ダンスが好まれているのではないかと思います。

(議長)

小学校の体力が全国的レベルに達していて素晴らしいということですが、新しく加わった

中村先生、小中体連としての指導的立場としてその辺をどうとらえていますか。

(委員)

現状を申しますと、小学校の低学年は全国平均よりよく、高学年はややよくて、中学校になると悪くなっているという傾向がありますが、これは私が保健体育課で仕事をしていた10～15年前と比べると反対になっています。

その時には、小学校に入った段階では千葉市は市街化・都会化が進んで体力が劣っており、それを小学校の学校体育、中学校の学校体育・部活動で中学校3年には全国平均より上にかせるという説明を教育長のあいさつ文で書いていた記憶があります。

最近傾向が違って来たと思い、そのことを課長さんや部長さんとお話することがあるのですが、原因がよくわからないという話になります。

千葉県は、もともと体力は高いのですが、千葉市の傾向がこのように反対になっている理由が分からないので、ゆっくり3年4年と時間をかけて分析して対策を講じていきたいと考えています。

(議長)

貴重なご意見ありがとうございます。他にありますか。

(委員)

武道の必修化の中で特別支援学級での武道の必修化や体育の方向性についてはどのようになっているのでしょうか。

(事務局)

すみません。特別支援学級のほうは、現在資料を持ち合わせておりませんので調べてから回答します。

(委員)

柔道がほとんどだと思いますが、私は市内中学校の軽度の特別支援学級で、講師として、道徳の時間等に合気道を通して指導をしています。武道について他の特別支援学級はどのような取り組みをしているのかか知りたかったのでお聞きしました。

(議長)

それでは、先に進みます。報告(2)についてお願いします。

(事務局)

スポーツ振興課より、(2)全市的なスポーツ施設の在り方の検討について別紙1に基づき報告がなされた。

(議長)

とくに審議ではなく、このように検討をしていくということによろしいですね。

(委員)

目的の③行政財産でありながら暫定利用している運動広場の整理の方向と位置付けですが、スポーツ振興課所管が6施設、当課以外が6施設、民間が9施設となっていますが、これを全部、市の行政財産として、スポーツ振興課が所管するという方向性はあるのですか。

(事務局)

まだ、部内の検討段階であり、今後のスケジュールでは今年度末に政策的な判断を仰ぎたいと思っております。

そういう中で、現在問題になっているのは、行政財産でありながら、地元の一団体だけが占用で利用しているという実態があり、行政財産であれば、当然条例化し、それを受け皿として、指定管理者や地元の町内会や団体等が広く地域の人
が利用できるようにしていかないと行政財産としての目的は達せられません。そういうものであればスポーツ振興課で受けるのは可能ですが、地元で何十年もの間
占用してしまっている状態のものがいくつもあります。そこにはすぐに正しいやり方を示し、その議論さえもされておりましたので、それを行い、それを受けて、地元とどう
いう交渉をするのか、本来あるべき姿を示していくという考え方です。

(委 員)

ということは、将来的には振興課でできれば一本化して引き取るという方向ですか。

(事務局)

できるものはこちらで引き取りますが、できないものについては、逆に言うと普通財産であれば売却するのか貸し付けをするのかそういうような資産運用の話になってく
ると思います。それは全庁的に資産を管理する部ができておりますので、そういうところでの検討になってきます。

(委 員)

たぶん、③は、今お話しにあったようなことが裏にはあるのではないかと、ということは私もわかっていましたが、これはぜひやっていただければと思います。

(事務局)

ありがとうございます。

(委 員)

民間から借り受けている広場は無償ですか。有償ですか。

(事務局)

無償になります。

(議 長)

他になければ次に行きます。

報告の(3) 障害者とのスポーツ交流の促進について事務局お願いします。

(事務局)

スポーツ振興課より、(3) 障害者とのスポーツ交流の促進について別紙2に基づき報告がなされた。

(議 長)

このテーマにつきましては非常にトピックなまた非常に難しいテーマかと思いますが、何かご質問がありましたらどうぞ。

この事業計画を促進することについて行政として今までどのくらいの実績があるのでしょうか。

障害者スポーツが開催されたと書いてありますが、直接行政がかかわって支援をされたということはありますか。

というのは、私も今まで全日本障害者スポーツ射撃連盟の会長を仰せつかっておりますが、今までは縦割りで、文科省と厚労省にわかれて、オリンピックとパラリンピックという二つ

の縦割りでやってきましたが、これを一つに扱うということは素晴らしいことだと思います。したがってこれを千葉市に根付かせる具体的な方策をぜひ立てていただきたいと思います。

たとえば体育協会で指導員の養成では、この組織を使って障害者のスポーツ指導員を養成する。また、ポートアリーナ等でスポーツ障害者の設備が併設されておりますので、そういう施設を使って、大々的に支援していくというようなことが考えられますが、何か行政としてご意見があればお願いします。

(事務局)

会長がおっしゃるように、縦割りというものが過去にありましたし、今も、組織上福祉サイドである障害者のスポーツと、実績でもありましたように17・19番はスポーツ振興課でバックアップをしているという実態がありますが、この役割分担は基本的に崩さない形で考えております。お互いに連携をとりながら、市長のマニフェストにある車椅子あるいは障害者スポーツを応援できる街にするということをスポーツ振興課が中心となって高齢障害部と健康部との連携をとり、障害者のスポーツを推進していくということです。具体的にはもう少し考えていかなければなりません。イベントの誘致や、受け皿であるポートアリーナの体育館を使いはどのような課題があるかなど、例えばラグビーをやると車椅子により床が破壊してしまう等について、そのようなことがないように備品の調達を検討するなどバックアップ体制をこれから作っていきたいと考えております。

(議長)

もう一つですね、従来の障害者という概念とこれから高齢化社会になると言葉は悪いですが、個人差はありますが、大なり小なり障害者になります。そのように障害者というものを幅広く解釈した場合に、これをどのように受け止めて対応していくかということをも十分考えなくてはならないと思います。

(事務局)

そのことも難しいところで、まず、今我々が言えることは高齢化が進む中、スポーツを通じての健康づくりを施策の中にしっかり盛り込み、健康部と生活文化スポーツ部が連携を進めていくということです。できるだけ障害者にならないような手立てをしていくことを我々は施策として考えています。

会長がおっしゃられたその先のことは、なかなか課題として整理できていないので勉強させていただきたいと思います。

(議長)

十分に勉強していただきたいと思います。

ほかに視野の広いところで谷藤先生どうですか

(委員)

霜先生は全日本の役員をやられているとお聞きしていますが、障害者スポーツの組織は県単位にはありますが市では組織にはなっていないのですか。

(事務局)

市には障害者スポーツの団体、組織はございません。

(委員)

千葉市内で大会が行われる場合では県の組織と連携をどのようにするかということは課題ではないかと思えます。全日本を含め障害者スポーツの指導資格取得を促進するということですが、千葉市は他のスポーツではコーチ等資格を出しているけれども障害者スポーツで千葉市でということになると組織がない中で難しいと思うので、すでにあるものをどう

いう形で活用できるのかというところが課題になるのだらうと思っています。

車椅子など一般の人が知っている障害者のスポーツもありますが、地域では大きな大会等が存在しなかったり、出ていなかったりするところにも障害者スポーツのクラブはあると思うので、そのへんを含めて障害者との交流ということになるのではないかと。そのクラブはどうしても月に1回2回ということになるので、日頃活動するクラブとの連携ということも入れていただきたいと思います。

(議長)

ありがとうございました。

(事務局)

いま、お話がありました、障害者スポーツ指導者の育成ということが体育協会、スポーツ推進委員の会議においても話題になりますが「どうやって指導したらよいか分からない。」という意見があります。

現在千葉市では、その指導者養成はしておりませんが、国や県の講習会の案内については会議等でできるかぎり情報をお伝える形をとっております。また、バレーボール競技では、子供達と障害者の大人の方が試合をすることや、硬式野球では、障害者のチームを作る等のバックアップをしております。今後の連携の拡大が課題でございます。

(委員)

後援しているのが2つということですが、後援の指定というのはあるのですか。

もっとたくさん後援があってもいいような気がしますし、障害者の方が何かするとき動きやすいと聞いたことがあるのですが。

(事務局)

表の上のほうは保健福祉局で後援をしている事業で生活文化スポーツ部でスポーツ振興として後援しているのが17と19ということでございます。

(委員)

地域では近年、障害者の人たちが地域の運動会などを見学する場所が設置されるようになってきたように思います。指導など直接的なものはできませんが一緒に参加しているという感覚は少しずつできてきているのではないかと実感があります。

(議長)

ほかにありますか。

(委員)

スポーツ振興計画の51ページにある大会の開催数が、21年度5回、25年度5回、27年度5回となっておりますが、達成の指標が、これは5種目ということですか。それとも総合的な障害者大会が5大会ということなのでしょう。

(事務局)

大会の数です。

(委員)

バスケットとか陸上競技など全部含まれた数ですか。

(事務局)

車椅子バスケット、車椅子テニス、車椅子卓球、車椅子ラグビー等を含めでの種目数です。

(委員)

今後増えていくという計画はあるのですか。

(委 員)

今後、大会の誘致ということ視野に入れておりますので、新たな大会の立ち上げや、既存の大会を千葉市に誘致するということも考えております。ここでは当初計画ということですが、現在はもっと増やしていきたいと考えております。

(議 長)

ポートアリーナはどうか。プロが使うバスケット等は床が傷むこともあるかと思いますが、視覚障害者や聴覚障害者、精神的な問題を抱えている人たちのスポーツ団体が使うということは。

(委 員)

今回の資料の17番にあるウィルチェアラグビーはポートアリーナで行いましたが、激しいあたりで当初、床に傷がつくことがございました。主催者と協議して当日は専用の養生を床にすることで、次の日に他の大会が入っている状況でも、問題なく使用できます。

テーブルテニスの聴覚障害の大会を行っておりますが部屋をわけて音を遮断できるようなところで行っておりますし、知的障害の方の大会も例年行っている実績があって、ボランティアの方が誘導など目を配っていただいておりますので、参加する皆さんが危険であるような場所は事前に地図等で示したり、引率の方を案内したりしているので特に大きな障害は感じておりません。

(議 長)

では今後ともよろしくお願ひします。それで連絡事項を終わりにします。次に議事に入ります。最初に議事(1)スポーツ振興計画の進行管理について、ご説明願ひます。

(事務局)

スポーツ振興計画の進行管理について、レジメ報告資料に基づき報告がなされた。

(議 長)

ただ今の事務局から説明について、何か質問はありますか。

ないようですので、事務局の案をそのまま進めていくということでよろしいでしょうか。

(委 員)

<承認>

(議 長)

それでは次に議事(2)千葉市トップスポーツとの連携の考え方について、事務局願ひします。

(事務局)

千葉市トップスポーツとの連携の考え方について、レジメ報告資料に基づき報告がなされた。

(議 長)

ただ今の事務局から説明について、何かご意見はありますか。

(委 員)

トップスポーツとの連携として、区民まつりの参加協力や学校等訪問などと示してありますが、実際にどのようにして区民祭りに参加していただくことができるのですか。学校訪問を要請するにはどういう方法で依頼すればよろしいのですか。

(事務局)

現在データベース化進めており、各トップスポーツチームにこういった地域貢献活動ができるか調査をしております。この時期にこのようなことならできるといった情報を集約していき

と思っています。それを今度は学校や地域に「このチームがこんなことができますよ」という情報提供を行い、両方からの情報をスポーツ振興課で集めてそれを橋渡しすることで、マッチングをおこなって行きたいと思います。

(委員)

わかりました。

(事務局)

補足ですが、平成24年度におきまして、「オービックシーガルズ」というアメリカンフットボールのチームがございますが、このチームにより、敬愛高校のアメリカンフットボール部への指導を行うという橋渡しをいたしました。各区民祭りにチェアリーディングの参加もコーディネートさせていただきました。今年7月30日に「千葉ジェッツ」というバスケットボールのチームがありますが、振興課で声掛けて、市内の小中学生を対象としたバスケットボール教室を開催してほしいとお願いをしたところ、それが実現して千葉公園体育館で開かれることになりました。これは直接振興課で声をかけてやったわけですが、全体像として他のチームで何ができるかというところが見えてきておりませんので先ほど言いましたができることについて情報を集約し、よりその活動が広がっていくようにコーディネートを進めていきたいと考えています。

(委員)

市民トップアスリートの情報提供についてですが、先日、市のホームページをみたところ、昨年度の審議でも話題になった、市のトップページにリンクを張ってすぐにそのページに行けるということが実現されて、非常に見やすいホームページになっていました。アスリート方の名簿一覧も、私が想像していたよりもたくさんの方々がいらっしゃるのだなあとおもしろかったです。ホームゲームや全国大会の誘致に関してはぜひとも積極的に行っていただきたいと考えています。去年のインターハイを新潟に観に行きましたが、非常に盛り上がりしておりこれが千葉でできたらと思いました。

(委員)

トップスポーツとの連携ということで、まずはトップスポーツの側が、何ができるかを考えなければならぬということですが、同時に市民のほうにも、こんな要望があるということも吸い上げていただいて、そちらから要望を出すという形で繋げていただければと思いました。

(委員)

知る観る交流するということは大変良いことだと思いますが、その中の観るということについてですが、先日たまたまフクダ電子アリーナにガンバ戦を観に行く機会がありましたが、4年ぶりに満員になりました。これは、ガンバには遠藤選手と今野選手がいるものですからそれを見に行く人が多かったわけですが、普段のジェフの試合はそうはいかず、半分かそれ以下という状況です。この状況をもっとよくするために小学生中学生の値段を安くして、解放できないか、市民としてはこの状況を危惧しています。私たちが行くときも1人2千円から2千5百円ほどかかるので、四人家族で行くと1万円もかかってしまい、なかなか行けません。野球もサッカーも市民レベルでどうにかできないか、働きかけができないかいつも思っています。

(議長)

ありがとうございました。

それでは、ただ今の事務局から説明について、他ご意見がないようですので、事務局の案をそのまま進めていくということでよろしいでしょうか。

(委 員)

<承認>

(議 長)

大変すばらしい連携の考え方ですのでぜひ進めていってほしいと思います。
その他なにかありませんか。

(委 員)

学校体育施設開放での備品のことですが、学校ができて30年40年経つと施設も古くなってきています。バレーボールの昔のポールはものすごく重く、錆びついています。非常に危険なので総合型スポーツクラブで費用をねん出して新しいポールを買いました。従来のポールもあるので、新しいスポーツに取り組むと新しい備品が増えてきます。備品をそろえても、その備品を置く場所がないという心配があります。学校の施設は限られており、総合型スポーツクラブハウスがないものですから体育館の中に置かせてもらっていますが、その中にある古くなった卓球台等かさばるようなものを何とか整理できないのでしょうかという相談です。先般、真砂で廃校になった学校の体育館を社会体育振興会が使おうとしたところ、バレーボールのポールが1本しかなかったものですから、渡りに船ということで、「古いものがあります」と、渡そうと思ったのですが、学校は「備品なので簡単に動かせない」ということでした。しかし、古いものも、新しいものもあるという整理ができていない状況です。そういったものの整理について何とかできないものかということをご相談したいのですが。

(事務局)

教育委員会のことなのでコメントは出しにくいのですが、備品自体の移管または廃棄という手続き上の問題だろうと思いますので、ご意見を教育委員会に伝えていきたいと思います。

(議 長)

他に何か、ありますか。ないようでしたら、副会長総括をお願いします。

(委 員)

大変すばらしい会議でした。スポーツの振興ということは、地域のコミュニティや絆を深めることに大きな役割をもっており、そのなかでも区民祭りへの参加協力等すごくいいですね。
私も稲毛区民まつりの実行委員長ですけれどもロッテのチアリーダーなども参加してくれますし、くじ引きなども一緒にやってくれる。皆さんが参加し、お互いに知り合うということが出来る、そういう会を設けるということが一番大事なのですね。スポーツ振興の大きな役割を今日はよく勉強させていただきました。ありがとうございました。

(議 長)

それでは、これで議長の任務を解かせていただきます。ご協力ありがとうございました。

(進 行)

会長、進行ありがとうございました。委員の皆さま、慎重なご審議ありがとうございました。

最後に、事務局より連絡をさせていただきます。

(8) 連 絡

(事務局)

最後になりましたが資料の修正をお願いします。資料の2ページ。委員の3番小川直哉委員の役職の部分ですが、体育協会副理事長となっておりますが副会長の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

今年度の次回以降の予定ですが、現在のところ、秋と年明けの開催を予定しています。詳細が決まりましたら改めて、ご案内いたしますので、よろしくお願いいたします。

(進 行)

それでは、これを持ちまして、平成25年度第1回スポーツ推進審議会を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

(9) 閉 会 15:50終了